



「生誕150年おめでとう」ブックリス

①おめでたい誕生日

ハッピーバースデイ、幾多郎さん！！
ところで、どうして誕生日はめでたいの？

- | | |
|--|--|
| 1 『たんじょうび ゆたかな国とまずしい国』
レイフ・クリスチャンソン
ディック・ステンペリ
岩崎書店 | 誕生日がめでたいのはプレゼントがもらえるから？
多くの子供にとってはそうかもしれない。
けれども、この絵本を読んだあとでもそういえるだろうか？ |
| 2 『おとうさんがおとうさんになった日』
長野ヒデ子
童心社 | 誕生日がめでたいのは
おとうさんがおとうさんになった特別な日だから？
私がおねえさんになった特別な日だから？
誕生日は何を記念している日なのだろう。 |
| 3 『今日は誰の誕生日？ 366日完全データブック』
主婦と生活社
主婦と生活社 | 幾多郎の誕生日といっても、そんなに特別な日ではない。
データブックを繰れば、毎日が誰かの誕生日。 |
| 4 『サラダ記念日』
俵万智
河出書房新社 | 記念日を作ることだってできる。例えばこんな風に。
「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日」 |
| 5 『生まれてこないほうが良かったのか？
生命の哲学へ！』
森岡正博
筑摩書房 | 仏教、ショーペンハウアー、現代の反出生主義。
「生まれてこないほうがよかった」という考えは昔からあったし、今もある。
「誕生」はどうしたら肯定できるのか？ |
| 6 『生まれてきたことが苦しいあなたに
—最強のペシミスト・シオランの思想』
大谷崇
星海社 | 「ペシミストの王」ともいわれるエミール・シオランの思想を紹介した本。シオラン
にとって誕生は災厄でしかない。「生まれないようにするために何もしなかった
と言って私は自分を責める」。もちろん、生まれる前には、私はいないのだから、
何もできるはずはなく、この災厄から救済される可能性は用意されていないのだ。 |
| 7 『現代思想 特集反出生主義を考える』
森岡正博 戸谷洋志 他
青土社 | D・ベネターは『生まれてこないほうが良かった』を書いて、分析哲学の手法を
用いて、鮮やかに反出生主義を主張した。本誌には、この主張を擁護したり、
批判したり、様々な角度からこの問題をとらえなおす論稿が集められている。 |
| 8 『オトナの一休さん』
NHKオトナの一休さん制作班
KADOKAWA | 数え年でいえば、人は正月に年をとる。お正月はめでたいのか？
一休は元旦の早朝、ドクロを竹の先にさして掲げて、正月を祝う京都の町中を
練り歩いたという。人は死んでしまえば、ただのしゃれこうべなのに、どうして
「きのう」が「きょう」になって、正月を迎えるだけで大騒ぎをするのだろうか。 |
| 9 『子供の哲学—産まれるものとしての身体』
檜垣立哉
講談社 | 「私」は別のだれか(親)の「子供」として生まれてきた。また、大人になった「私」
は別のだれかと「子供」を、つまり「私」とは別の「私」を作るかもしれない。こんな
不思議なことがあっていいのだろうか。子供と妊娠の哲学。 |
| 10 『死と誕生—ハイデガー・九鬼周造・アーレント』
森一郎
東京大学出版 | 人は偶然に生まれて、そして死んでいく。死について論じたハイデガー、誕生
について論じたアーレント、そして偶然について論じた九鬼周造の思想を参照
しながら、生誕について考える。 |

②キリのいい数

「149」でも「151」でもなく「150」
「150」は素敵な、キリのよい数にみえる。そもそも数って何だろう？

- | | |
|---|---|
| 11 『アリになった数学者』
森田真生 脇坂克二
福音館書店 | アリには、かぞえるための指がない。
たくさんを同時に見たす視力もない。ものを1個、2個、3個と数えるの
は人間だけなのかもしれない。アリにとっての数とはどんなだろう？ |
| 12 『異端の数ゼロ
—数学・物理学が恐れるもつとも危険な概念』
チャールズ・サイフェ
早川書房 | 【0】
ゼロはどこか変な数である。ゼロを足しても、引いても、5は5のまま。ゼロをか
ければ、3も5も150も、何でもゼロになってしまう。 |

13 『ひとつ』	マーク・ハーシュマン バーバラ・ガリソン	福音館書店	【1】 かぞえきれないほど ほしはあるけど そらはただ1つだけ ロープは2ほん ぶらんこ1つ 谷川俊太郎が訳した、oneについての絵本。
14 『無限論の教室』	野矢茂樹	講談社	【無限】 無限とは何だろうか？ 「一番大きい量のことでしょうか」と答えると、先生はうれしそうに「それ、それはですね、いちばん愚劣な答えです」という。お菓子を食べながら、哲学の先生と学ぶ無限論。
15 『マンガ エニグマに挑んだ天才数学者チューリング』	フランチェスカ・リッチョーニ トウオノ・ベッティナート	講談社	「機械は考えることができるのか」 コンピューターの父、チューリングの人生と数学的思想。
16 『数学ガールの誕生 理想の数学対話を求めて』	結城浩	ソフトバンク クリエイティブ	オイラー、フェルマーの最終定理、ゲーデルの不完全性定理… 本格的な数学のテーマに中学生・高校生がチャレンジする学園青春小説の人気シリーズ「数学ガール」。その誕生の裏側を著者自身が解説している。

③時間ってなんだろう？

時間のあるこの世界では、知らぬ間に時が経ち、物は壊れて失われる。
だからこそ人は記念日を作るのかもしれない。

17 『ゆっくりとはやく』(哲学のおやつ)	ブリジット・ラベ ミッシェル・ピュエシュ	日本放送出版協会	時間を無駄にするのは良くないのかもしれない。何もせずに時間だけが過ぎたら、人生を無駄にしているのかもしれない。でも、人生を楽しむってどういう事だろう？時間について考える、子ども哲学の本。
18 『モモ』	ミヒャエル・エンデ	岩波書店	「時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語」時間は大事なかもしれない。けれども、本を読んだり、何もしない時間、誰かと過ごす時間を節約するのは、時間を大事にすることは少し違うような気がする。自分の時間って何だろう？
19 『時間と自由』	ベルクソン	岩波書店	時の流れを一本の線のように考えるのは間違っている、とベルクソンは考える。それは、時間を空間のように考えることだ。時間を時間として考えるとはどういうことだろうか？
20 『時間論』	九鬼周造	岩波書店	時間は過ぎ去って戻ることのない、矢のようなものだという人もいる。けれども、永遠に繰り返す、車輪のようなものだとも考えられる。『時間論』という本を手取る、この今の瞬間は、過去に無限にあったし、未来にも無限にあると考えることもできるのである。日本の哲学者、九鬼周造は永遠に繰り返す時間の観念について考えた。
21 『100万回生きたねこ』	佐野洋子	講談社	100万回しんで、100万回生きたねこの物語。 100万人の人がそのねこをかわいがり、 100万人の人が、ねこがしんだときにないけれど、 ねこは一回もなかななかった。繰り返すことと繰り返さないことについて考える
22 『エンドレスエイトの驚愕 ハルヒ@人間原理を考える』	三浦俊彦	春秋社	「エンドレスエイト」はSF学園アニメ『涼宮ハルヒの憂鬱』で、8週分の放送枠を使って放映されたエピソード。夏休みの最後の15日間をやり直す時間ループとそこからの脱出が描かれるが…その実験的すぎる表現方法で多くのファンを驚愕させた。本書は、分析哲学の理屈力で「エンドレスエイト」に挑戦した本。
23 『ここにはないもの—新哲学対話』	野矢茂樹 いたう瞳	大和書房	「十年前のぼくも、ぼくなんだろうか」「どう思う？」、ミューは尋ねた。 こんな風にたずねられたら誰だって困ってしまう。それは答えが分からないというよりも、なにを聞かれているのか分からないから。ミューとエプシロンの対話を通じて、問いの輪郭がゆっくりと浮かび上がってくる哲学絵本。
24 「過去はどこに行っちゃったの？」『子どもの難問』	野矢茂樹／編	中央公論新社	子どもが投げかける様々な疑問に、それぞれ二人の哲学者が悩みながら答える本。「過去はどこにいっちゃったの？」野家啓一は、物語りの中にあると答える。永井均は、そもそも記憶が過去を再現しているはどうして分かるのか、と問い返す。
25 『時は流れず』	大森荘蔵	青土社	過去を思い出す、と言ったりする。ないものを思い出すのは変だから、過去はあるのだろう。でも本当にそうだろうか？過去は想起であり、想起とは過去を言語的に制作することだ、という大森荘蔵の時間論。
26 『まってる。』	デヴィッド・カリ セルジュ・ブロック	千倉書房	時間がなにかなんて、むずかしくてわからない。 でも、「まってる」ってことなら、よく知っている。 わたしたちは、いつも何かをまちながら生きている。

④思い出を残すための方法

人は、思い出を残すために記念日を祝うのかもしれない。
私たちが生きた思い出や痕跡を残すには、どんな方法があるのだろうか？

- | | | |
|------------------------------------|--------------------------|---|
| 27 『思い出になるおべんとう』 | アンジェロ・コッツォリーノ 他 アスコム | おべんとうは食べたらなくなる、食べなくても腐る。思い出は食べた人の心の中に残るのだろうか？その人だって、忘れるし、いつか死ぬ。忘れられても残るのは、たとえばこの本のように活字で残されたレシピかもしれない。 |
| 28 『つみきのいえ』 | 加藤久仁生 平田研也 白泉社 | 海面からひとつ、ちょこんと突き出ているちいさな家に住むおじいさんの絵本。この町では、海の水がだんだんあがってくるので、ひとびとは、水に沈んだ家の上に新しい家を作り続けてきた。海の下に、積み木のように重なった家を、おじいさんがめぐりながら、それぞれの家に住んでいた昔を思い出す。過去や思い出は、幾重にも重なって私たちの足元にあるのかもかもしれない。 |
| 29 『偉大な記憶力の物語 ある記憶術者の精神生活』 | A. R. ルリヤ 岩波書店 | 【記憶に残す】
多くの人は、いったん記憶したことでも、そう長く、記憶し続けることはできない。
私、忘却を知らない記憶力があつたら世界はどんな風に見えるだろう。 |
| 30 『思い出まるごとデジタル保存』 | 日経BP社 | 【アナログ・デジタルで残す】
VHS、8ミリビデオ、レコード、カセットテープ、写真、フィルム……さまざまなアナログの記録を、デジタルにおき替えて保存するための本。
デジタル化したデータは50年先も残るだろうか？ |
| 31 『子どもたちの遺言』 | 谷川俊太郎／詩
田淵章三／写真 佼成出版社 | 【写真で残す】
生まれたての新生児、ハイハイする赤ちゃん、おしっこをする男の子、教室の女生徒など。その瞬間、その年齢ならではの表情を写した写真集。谷川俊太郎は、その瞬間の子どもたちになりかわって遺言を、詩として残している。 |
| 32 『現代の記念物崇拜』 | アロイス・リーグル 中央公論美術出版 | 【物で残す】
古い記念物にどういった価値があるのかを考察した本。
碑文のように、製作者が後世に向けて残したメッセージの価値もある。メッセージがなくても、文化発展の歴史の中の、かけがえのない一時代を伝えるという価値もある。歴史の証拠にはならなくても、ただただ古いというだけでも人を惹きつける価値がある。 |
| 33 『ピラミッド』 | かこさとし 偕成社 | 【大きな物で残す】
一辺が230メートル、高さ147メートルの巨大なクフ王の大ピラミッドは4500年以上前から残っている。 |
| 34 『カプトガニの謎
2億年前から形を変えず生き続けたわけ』 | 惣路紀通 誠文堂新光社 | 【死んでも、生んで殖やして残す】
生きものは、生まれて、そしていつか死んでしまう。けれども、遺伝子をコピーして、自分と同じような生きものを殖やすことができる。
カプトガニは2億年も前の形を残している。 |
| 35 『にんげんが文字をつくってから』 | シュザンヌ・ビュキエ リブリオ出版 | 【文字で残す】
文字の発明によってひとは、前の世代の人びとの発明や経験を、忘れたり、間違えて伝えたりすることがなくなった。 |
| 36 『文字渦』 | 岩波書店編集部 岩波書店 | 【文字が残す】
「私たち」が文字を使って何かを書き表し、何かを書き残していると考えるのは間違っているかもしれない。
「文字自身」が残っているのであり、「文字自身」が何かを語っているのではないだろうか？ |
| 37 『本ができるまで』 | 森岡正博 講談社現代新書 | 【本で残す】
人の言葉は本という形で後世に伝えられる。その本づくりの技術も、進化しながら、次の世代の技術者への受け継がれていく。
ゲーテンベルクに始まる活版印刷の歴史を紹介し、また、印刷会社「精興社」が活版印刷からコンピューターによる写植へと変化するプロセスなど、日本での出版業界の裏側も紹介している本。 |
| 38 『ルリユールおじさん』 | いせひでこ 講談社 | 【本を残す】
本だって、物だから、いつか壊れる。
こわれた本はどこへもっていけばいいの？
ルリユールはフランス語で製本・装丁を行う職人のこと。 |



⑤150年の歴史？

時間が経てばなんでも歴史になるわけではない。
誰かが語ってはじめて歴史が生まれる。歴史を物語るとはどういうことか？

- | | |
|--|---|
| 39 『歴史を哲学する』
野家啓一
岩波書店 | 人間は、神様のように唯一の正しい歴史を語ることはできない。私たちは過去を思い起し、その痕跡からなんとか歴史に迫ろうとする。そんな人間にとって「歴史的事実」とはどんなものだろう。 |
| 40 『物語の哲学』
野家啓一
岩波書店 | 「人間は「物語る動物」である。あるいは、「物語る欲望」に取り憑かれた動物、と言った方が正確であろうか」
「物語る」とはどういうことだろう？ |
| 41 『歴史哲学』
三木清
岩波書店 | 西田幾多郎の弟子、三木清は、人が歴史を書く「現在」に注目して歴史を考えた。そして、「歴史が書かれるこの条件は同時にそれが書き更へられる条件」だとも言う。彼によれば、歴史は、単なる過去の出来事でも、その出来事の叙述でもない。それでは、歴史とは何だろうか？ |
| 42 『歴史哲学講義(上・下)』
ヘーゲル
岩波書店 | ヘーゲルによれば「世界史」という舞台の主演は「精神」である。「精神」がさまざまな犠牲を払いながら、自由を実現しようと前進する、それが「世界史」なのだという。 |
| 43 『数学に魅せられた明治人の生涯』
保坂正康
筑摩書房 | 歴史に名を残さなかった人の歴史。
フェルマーの定理は350年もの長きにわたって証明が与えられなかった。多くの数学者が、そして無数の数学愛好家たちがこの魅力的な定理に挑んだ。そんなアマチュア数学者の一人に焦点を当てた伝記。 |
| 44 『せいめいのれきし』
バージニア・リー・パートン
岩波書店 | 地球のように、せいめいが生まれたときから、いままでのおはなし。
ひとは、まだひとが生まれていなかった大昔のことも語ることができる。けれども、ひとがだれもいなくなったら、れきしが語られることはないだろう。 |
| 45 『1冊で分かる 歴史』
ジョン・H・アーノルド
岩波書店 | 歴史家が何をしているのかを歴史家自身が説明した本。
歴史は真実の物語であるという。ある歴史が真実であるというのは、それが史料と矛盾しないということ。だから、歴史家はでっち上げや改変をしてはいけない。けれども単なる史料の集積は歴史ではない。歴史家がそれを解釈し、広いコンテキストに位置づけ、興味深い形にまとめることで、歴史になるのである。 |

⑥幾多郎の記念日

誕生日、結婚記念日、離婚＆解雇記念日
幾多郎のいろいろな記念日

- | | |
|--|---|
| 46 「父」『西田幾多郎歌集』
西田外彦 他(上田薫 編)
岩波書店 | 幾多郎の誕生日は2つある。一つは戸籍の誕生日「明治元年8月10日」。もう一つは「明治3年5月19日」、こちらが正しい誕生日である。幾多郎に早く教育を受けさせるため、父親が戸籍を書き換えたために2つの誕生日が生じた。 |
| 47 『寸心日記』
西田幾多郎
燈影舎 | 離婚＆解雇記念日(5月24日&5月31日)
明治30年の5月24日、幾多郎は関係が悪化していた父によって妻・寿美と無理やり離縁させられた。さらに一週間後の31日には、学内のスキャンダルに巻き込まれて勤め先の第四高等学校を解雇される。一週間のうちに家庭と仕事の両方を失った、幾多郎にとって不運な記念日。 |
| 48 「或教授の退職の辞」
『続思索と体験』
西田幾多郎
岩波書店 | 京大退職記念日(8月18日)
幾多郎は講義終了記念のスピーチを次のように締めくくった。
「幼時に読んだ英語読本の中に「墓場」と題する一文があり、何の墓を見ても、よき父、よき夫、よき妻、よき子と書いてある、悪しき人々は何処に葬られて居るのであろうかと云ふ如きことがあつたと記憶する。諸君も屍に鞭(むちう)たないと云ふ寛大の心を以て、すべて私の過去を容(ゆる)してもらひたい。」 |
| 49 『人間・西田幾多郎』
藤田正勝
岩波書店 | 西田幾多郎の人生については数多くの伝記・評伝が書かれており、直弟子たちの評伝、親族による評伝、研究者による伝記もさまざまなタイプがある。幾多郎とじかに接した人にしか書けない貴重な証言もあるが、後世の研究者にしか見えないこともある。
西田幾多郎についての最新の伝記。 |
| 50 『点から線へ 第69号』
石川県西田幾多郎記念哲学館 | 哲学館の雑誌『点から線へ』は発行69号を数える。この雑誌が作られたのは、哲学館の前身、西田記念館の時代から行われている伝統ある哲学イベント「夏期哲学講座」の受講生たちが情報交換をするためだった。
「第1号」は現在のような冊子状ではなく、藁半紙3枚にガリ版で手書きの文字を刷っている。 |

リストの本は、展示期間中は貸出できません。(3月17日から貸出)